

6 目標来園者数

■現状の来園者数

- ・ 鶴見緑地の現状の来園者数は、2018（平成30）年に実施した利用者数調査の結果を基に、年間約435万人と推計される。
- ・ 2018（平成30）年に実施した利用者アンケート（N=635）の結果、近隣地域^{※1}の利用者が80.7%、近隣地域以外の利用者が19.3%であったことから、年間来園者数のうち、近隣地域からの来園者が351万人、近隣地域以外からの来園者が84万人と推計される。

※1 近隣地域は、大阪市、守口市、門真市、東大阪市、大東市の5市とした。

■圏域人口

- ・ 鶴見緑地の利用圏域を半径50kmと想定した場合、圏域内の総人口^{※2}1,641万人、そのうち、近隣地域内が358万人、近隣地域以外が1,283万人である。

※2 人口は、平成27年度国勢調査結果による。

■潜在需要率の設定

- ・ 鶴見緑地の魅力向上を図ることにより、これまで鶴見緑地を利用していなかった階層が利用するようになる際の潜在需要率^{※3}を、「2017レジャー白書」における関連項目の潜在需要率を基に、9.55%と設定する。

※3 潜在需要率は、将来の参加希望率と現在の参加率の差で示される数値。
魅力向上により、この比率分の利用者が新たに鶴見緑地を利用すると想定する。

■魅力向上による来園者数の増加の推計

- ・ 鶴見緑地の魅力向上により、現在の利用形態に加えて、潜在需要率9.55%が新たな利用形態で利用すると想定すると、近隣地域及び近隣地域外の広域地域において、新たな利用形態による延べ利用人数は下表のとおりとなる。
- ・ 近隣地域の利用者の利用回数を2回/年、広域地域の利用者を1回/年と想定すると、魅力向上による年間利用者数の増加は、115.8万人と算定される。

表17 魅力向上による年間利用者数の増加の推計

単位：万人

	①圏域人口	②現行利用者数 ^{※4}	③圏域人口のうち現在利用していないと想定される人数 (①-②)	④魅力向上により新たな利用形態で利用する人数 (③×9.55%)	⑤利用回数	⑥魅力向上による年間利用者数の増加 (④×⑤)
近隣地域	358	351	7	0.67	2	1.3
広域地域	1,283	84	1,199	114.50	1	114.5
計	1,641	435	1,206	115.17	—	115.8

※4 現行の利用者は、鶴見緑地を年平均1回/人利用していると仮定した。

■目標来園者数の設定

- ・ 上記より、段階的な施設整備等により、7年目を目処に年間利用者数が115万人増加すると想定し、鶴見緑地の再生・魅力向上による目標来園者数を、現状の年間435万人から115万人増の年間550万人と設定する。



7 参考：基本方針に基づく必要な機能と取組のイメージ

魅力向上・活性化を図る上で参考となる事例を収集し、事業の概要について整理した。

(1) 海外における事例

1) 博覧会のレガシー施設の継承事例

海外の博覧会跡地では、博覧会当時の庭園や建築物等を継承し、魅力創出に活かしている以下のような事例がみられる。

カールトン庭園(The Carlton Gardens)

- 所在地 : オーストラリア・ビクトリア州メルボルン市
- 面積 : 約26ha
- 公園管理者: メルボルン市
- 主な施設 : 王立展示館、メルボルン博物館、IMAX映画館、テニスコート、子どもの遊び場



カールトン庭園

出典：<https://worldheritagesite.xyz/royal-exhibition-building/#index1>



出典：<https://www.melbournepoint.com.au/attractions/parks/carlton-gardens/>

◆公園の概要

- ・カールトン庭園は、1939年に公園用地とされたことに始まり、1880年に開催されたメルボルン万国博覧会の際に大規模な整備が行われた庭園である。ガーデンシティ・メルボルンを代表する美しい庭園として、人気の観光スポットとなっており、2004年に世界遺産に登録された。
- ・庭園内には、万博時に建設された、ビザンチンやルネサンス、ロマネスクなどの建築様式を取り入れた王立展示館があり、同じく2004年に世界遺産に登録された。

◆事例のポイント

- ・カールトン庭園は、1839年に造園が開始された歴史のある庭園であり、敷地面積は約26haである。園内には、王立展示館のほか、メルボルン博物館、IMAXシアター、テニスコート、児童広場などがあり、様々なアクティビティを楽しむことができる。
- ・王立展示館は、メルボルン万博の展示施設として、1880年に完成した。1888年には、オーストラリア入植100周年記念国際博覧会の会場として、1901年には、第1回連邦議会の会場として使用され、現在もイベント会場として利用されている。
- ・博覧会ときに整備された庭園と展示施設を良好に保全することにより、世界遺産として登録され、メルボルン市を代表する観光地となっている。



カールトン庭園

出典：オーストラリア環境・エネルギー省HP



王立展示館

出典：王立展示館HP

ジャクソン公園 (Jackson Park)

- 所在地 : アメリカ合衆国イリノイ州シカゴ市
- 面積 : 2.43km²、4,000m² (日本庭園部分)
- 公園管理者 : Chicago Park District委員会
- 主な施設 : 屋内競技場、ウォーキングコース、ゴルフコース、日本庭園



The Garden of the Phoenix

出典 : 日本造園学会HP



出典 : Maps-Chicago.com

◆公園の概要

- ・ジャクソンパークは、イリノイ州シカゴのサウス・サイドに位置し、1893年のシカゴ万国博覧会の跡地に整備された公園である。公園内には、シカゴ市内唯一の日本庭園がある。

◆事例のポイント

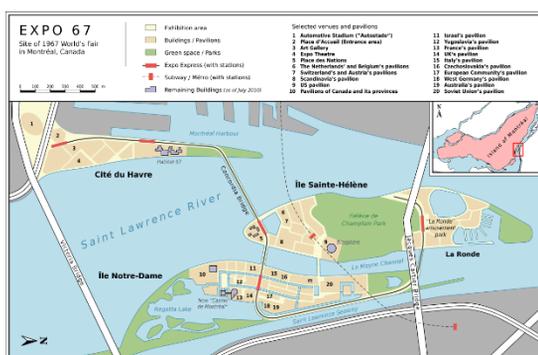
- ・博覧会当時の建物は、多くが木造であったため、博覧会終了後の1894年に大火災で焼失したが、博覧会場の中心であったレンガ造りの建物は保存され、シカゴ科学産業博物館として現在も利用されている。
- ・また、博覧会における日本のパビリオンとして鳳凰殿と日本庭園が整備された。博覧会終了後は、シカゴ市に寄贈され、1934年の修復により日本庭園が増設されたが、1946年に火災により庭園内の鳳凰殿が焼失して荒廃が進んだ。1980年代初頭までにシカゴ市により日本庭園の大規模な改修が行われ、1993年には大阪市が姉妹都市提携20周年記念事業として庭園整備のための資金を提供したことを機に「Osaka Garden」と改名された。
- ・博覧会で整備された建物や庭園を残し、博覧会の理念の継承や、国際交流の場として活用されている。

ジャン・ドラポール公園 (Parc Jean-Drapeau)

- 所在地 : カナダ・ケベック州モントリオール市
- 面積 : 約26ha
- 公園管理者 : Parc Jean-Drapeau Society
- 主な施設 : 博物館、レース場、バイオスフィア、ローラースケート場



写真出典 : ジャン・ドラポール公園HP



万博会場計画図

出典 : モントリオールEXP067

◆公園の概要

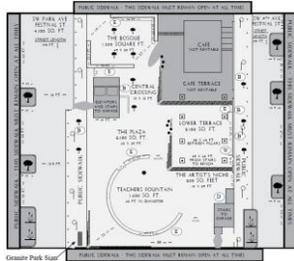
- ・ジャン・ドラポール公園は、1967年に「人間とその世界」をテーマに開催されたモントリオール万国博覧会の跡地に整備された公園である。セントローレンス川の中洲のサンテレーヌ島と、その南東の人工島ノートルダム島が主会場となり、現在は両方の島がジャン・ドラポール公園となっている。

◆事例のポイント

- ・博覧会において、バックミンスター・フラーの設計により建設された、高さ約60mの球体の建築物「バイオスフィア」が残されている。現在は博物館として活用されており、環境や持続可能な技術を学ぶ施設となっている。博覧会施設を、良好に維持・活用することにより、博覧会の理念や記憶を継承する取組が可能となっている。

2) 公園への収益還元の事例

公園では、レストラン等の収益や、イベントにおける占用料などを、公園の維持管理に還元する仕組みが構築されており、質の高い公園管理に繋がっている。

ブライアントパーク(Bryant Park)	
<ul style="list-style-type: none"> ●所在地 : アメリカ合衆国ニューヨーク州 ニューヨーク市 ●面積 : 3.9ha ●年間利用者: 600万人 ●公園管理者: Bryant Park Corporation (BPC) ●主な施設 : ニューヨーク公共図書館 (NYPL)、芝生広場、サウス ウエストポーチ (暖房器具が完備され飲食可能)、ト イレ1カ所、飲食店: 3カ所、メリーゴーランド ●設備 : 無料Wifi 	 <p>出典: ブライアントパークHP</p>
 <p>出典: ブライアントパークHP</p>	
◆公園の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ブライアントパークは、1853年のニューヨーク万国博覧会会場となった公園である。博覧会の目玉として、クリスタルパレスが建設されたが、5年後に火災で焼失した。1934年に芝生を中心とした公園に再設計された。1970年代には、麻薬売買の場になるなど問題があったため、1988年に改善工事のために閉鎖され、1992年に再開園した。 ・民間事業者等で構成されるBryant Park Corporation (BPC) が管理運営を行っている。 	
◆事例のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・BPC設立当初は、ロックフェラー兄弟基金から資金援助を受け、1989年から1998年までは、市より年間25万ドルの助成があったが、現在は、公園周辺の不動産所有者約25名の商業施設1平方フィート当たり16ドルの賦課金の拠出が義務付けられ、BPCはこの賦課金を公園マネジメントの財源として活動している。また、イベント収益や園内のレストラン賃料等からの収益も、既存施設の改修を含めた管理運営に活用している。 ・冬季は芝生広場をアイススケートに転換するほか、毎日公園内で魅力的なプログラムが開催されている。 ・同公園では、<u>イベント料金、レストラン賃料等の収益を還元することで公園施設の改修などの財源としている。</u> 	
ディレクターパーク(Director Park)	
<ul style="list-style-type: none"> ●所在地 : アメリカ合衆国オレゴン州ポートランド市 ●面積 : 0.19ha ●公園管理者: ポートランド市と多数の民間援助団体 ●主な施設 : 噴水、パブリックアート、ガラスキャノピー、カフェ ●主な設備 : ・ビッグチェス (11:00~17:00、季節によって時間は異なる) ・Teachers Fountain (噴水/8:00~22:00) ・無料Wifi 	  <p>出典: ディレクターパークHP</p> <p>出典: https://www.portlandoregon.gov/parks/article/292475</p>
◆公園の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ディレクターパークは、オレゴン州ポートランドの駐車場であった場所で、駐車場を地下化して2009年に開園した都市公園である。小さな都市公園ではあるが、噴水、美術作品、ガラスキャノピーなどがあり、年間を通じて多数のイベントが行われ、賑わいを作り出している。 ・管理運営は、ポートランド市とポートランド開発委員会、ポートランドパークス財団、多数の民間援助団体を含む市民のパートナーシップによって行われている。 	
◆事例のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・<u>公園の各エリアをイベントなどに貸出し、その収入を公園の維持管理費に充当している。</u>年平均収入は3万4000ドル(約376万円)超。イベントのための場所貸し収入14万ドル。年間維持費は47万5000ドル(約5,262万円)。 ・年間のイベント利用者は約24,000人。年間228ものイベントが開催されている。また、クラウドファンディングを用いて寄付を募ったイベントも開催されている。週末にはダンスのショー、官民にわたるスポンサーを得た音楽イベント等も開催。 	

3) 公園と周辺施設との一体的な管理の事例

公園周辺の文化施設の管理運営を行っている事業者が、公園の管理運営を一体的に行うことにより、魅力的なイベントの実施が実現している。

グランドパーク(Grand Park)	
<ul style="list-style-type: none">●所在地 : アメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンゼルス市●面積 : 4.9a●公園管理者: ロサンゼルス・ミュージックセンター●主な施設 : 噴水、芝生広場、カフェ、売店、野外ステージ、等  <p>出典: グランドパークHP</p>	 <p>出典: https://archpaper.com/2012/07/las-grand-park/</p>
<p>◆公園の概要</p> <ul style="list-style-type: none">・グランドパークは、カリフォルニア州ロサンゼルス市の都心部に位置する都市公園であり、2012年に開園した。周辺には、市庁舎やミュージックセンターなどの公共施設が建ち並んでおり、園内には芝生広場や野外劇場、カフェなどが整備されている。	
<p>◆事例のポイント</p> <ul style="list-style-type: none">・公園に隣接するウォルトディズニーコンサートホールなどの複数の劇場を運営するロサンゼルス・ミュージックセンターが、公園の管理運営を行っており、園地を使用して、ミュージックセンターが提供するイベントなども行われている。・周辺の文化施設を管理運営する事業者が、公園の運営も行うことにより、一体的な管理運営が可能となっている点に特徴がある。	

4) 地域に定着するイベント等の事例

公園等の場において、特色あるイベントを継続的に実施することにより、地域に定着しており、公園の賑わいづくりや観光振興に大きく寄与している。

カールトン庭園(The Carlton Gardens)再掲

- 所在地 : オーストラリア・ビクトリア州メルボルン市
- 面積 : 約26ha
- 公園管理者: メルボルン市
- 主な施設 : 王立展示館、メルボルン博物館、IMAX映画館、テニスコート、子どもの遊び場



カールトン庭園

出典 : <https://worldheritagesite.xyz/royal-exhibition-building/#index1>



出典 : <https://www.melbournepoint.com.au/attractions/parks/carlton-gardens/>

◆公園の概要

- ・カールトン庭園は、1939年に公園用地とされたことに始まり、1880年に開催されたメルボルン万国博覧会の際に大規模な整備が行われた庭園である。ガーデンシティ・メルボルンを代表する美しい庭園として、人気の観光スポットとなっており、2004年に世界遺産に登録された。
- ・庭園内には、万博時に建設された、ビザンチンヤルネサンス、ロマネスクなどの建築様式を取り入れた王立展示館があり、同じく2004年に世界遺産に登録された。

◆事例のポイント

- ・毎年、王立展示館とカールトン庭園において、南半球最大の園芸イベント「メルボルン国際フラワー&ガーデンショー」が開催されており、ガーデニングに関するトップクラスの展示が見られる場として、世界中から多くの観光客を集めている。
- ・また、メルボルンでは、毎年3月、市内各所において「フード&ワインフェスティバル」が開催され、25万人に及ぶ観光客が訪れており、カールトン庭園も開催場所の一つとなっている。
- ・花やガーデニング、食など特色あるテーマに関するイベントの継続的な開催により、賑わいを創出し、観光振興に大きく貢献している。



王立展示館における室内展示
出典 : メルボルン国際フラワー&ガーデンショー公式HP



SHOW GARDENS (屋外における庭園展示)
出典 : メルボルン国際フラワー&ガーデンショー公式HP



フード&ワインフェスティバル
出典 : フード&ワインフェスティバル公式HP

スモーガスバーグ(Smorgasburg)	
<ul style="list-style-type: none"> ●所在地 : ニューヨーク州ニューヨーク市ブルックリン ●面積 : イーストリバー州立公園4.5ha プロスペクトパーク213ha ●公園管理者 : Brooklyn Flea 	 <p>出典 : スモーガスバーグHP</p>
<p>◆公園の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イーストリバー州立公園は、ニューヨークのブルックリンのイースト川沿いに位置する州立公園。プロスペクトパークは、同じくブルックリンに位置する213haの広大な公園で、園内には動物園や湖がある。 	
<p>◆事例のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スモーガスバーグは、ニューヨークのブルックリンで、春から秋にかけて開催される、食に特化した野外フリーマーケットである。土曜日はイーストリバー州立公園、日曜日はプロスペクトパークで開催され、約100店舗が参加し、毎週末2～3万人の観光客や地元客が訪れている。 ・このフードマーケットがインキュベーションの役割を担い、出店を契機に話題となり、常設店を構えるまでに成長するケースも多くみられる。 ・食に特化したテーマ性のあるイベントを、継続的に開催することにより、地域の魅力スポットの創出に成功している。 	

5) 花による魅力創出の事例

花を用いたイベントの実施やモニュメントの整備により、魅力スポットの創出に成功している事例として、以下のようなものがある。

バレンシアの火祭り(Fallas)	
●所在地 : スペイン・バレンシア州バレンシア市	
 <p>出典 : http://little-puku.travel.coocan.jp/1kaigai/24eastspana/6himaturi.html</p>	
<p>◆イベントの概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火祭りの起源は、3月19日のサン・ホセ（聖ヨセフ・キリストの父親）の日に、大工たちが古い材木を集めて焚き火をしたことに由来すると言われている。期間中は「ファリャ（張り子の人形）」に火がつけられ、スペインに本格的な春を告げるきっかけとなっている。この火祭りは、2016年にユネスコの世界遺産に登録された。祭りの期間中、広場ではマリア像が設置され、行列に参加している人たちが持ってきたブーケの花を飾り花のマリア像が完成する。 	
<p>◆事例のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産にも登録されている地域の歴史的イベントを継承するとともに、春の到来を祝うなどのイベントで多くの観光客を迎えている。特に花をテーマとしたイベントを継続的に実施することにより、賑わいを創出している。 	

グッゲンハイム美術館(Museo Guggenheim) : 花の犬

●所在地 : スペイン・バスク州ビルバオ
グッゲンハイム美術館



出典 : <https://travel-star.jp/posts/10394>

◆施設の概要

- ・ビルバオ・グッゲンハイム美術館は、スペインのバスク自治州ビルバオ市にあるコンテンポラリーアートを専門とする美術館であり、1997年に開館した。アメリカのソロモン・R・グッゲンハイム財団が設立したグッゲンハイム美術館の分館の一つである。

◆事例のポイント

- ・美術館の入口正面に、「パピー」と呼ばれる花でかたどった子犬のモニュメントが設置されている。アメリカの美術家ジェフ・クーンズ作品で、シドニーの美術館に展示されていたものを、ソロモン・R・グッゲンハイム財団が購入して美術館のマスコットとして展示したものである。パピーは、高さ12m、重さ15トン、約4万本の花で装飾され、年2回、花の植替えが10日間かけて行われる。
- ・花を用いたモニュメントを整備することにより、魅力スポットの創出に成功している。